

# 加速器建設費を抑制

## 東北有力国際リニアコライダー

### 国際委 5千億円に実現弾み

宇宙の成り立ちのなごに迫る大型加速器「国際リニアコライダー（ILC）」の建設で、日米欧を中心とする

設置が約4割抑制され、約5千億円となる見込み。各国政府が資金を拠出しやすくなり、実現の可能性が高まった。岩手、宮城両県にまたがる北上山地が建設地の有力候補になっている。

ILCは直線のトンネル内に設置する大型加速器。電子と、電子とは逆の正の電荷を持つ陽電子を光速の99%以上に加速してビーム

を正面衝突させて、飛び出てくる「ヒッグス粒子」などの粒子を観測する。宇宙の成り立ちや暗黒物質が生まれる仕組みの解明などが期待され、2022年度以降の着工を目指している。トンネルが長い方が強いエネルギーを生み出せるため、全長を約30キロとする計画だった。だが、建設費が8500億円以上かかるた